2023 年 2 月 6 日

# 表層空間の複合化手法としてのバルコニーに関する研究
## - 中央区月島西仲通り周辺の路地を中心に-

建築学専攻　　MJ21134 楊頌南（ようしょうなん）
プロジェクトデザイン研究　　指導教員：山代悟

## 0｜序章｜「外」からのバルコニー

### 0-1_研究背景

東京の街を眺めると、RC 造の集合住宅の標準的なバルコニーや戸建の住宅の個性的なバルコニーが、豊な都市景観に溶け込んでいる。

人口の都心回帰に伴う開発が進む中で、コミュニティの喪失などの問題点がある他。低層住宅地の個性と高層ビルの居住環境の両立が難しい。

本研究では、微視的で見た建築のバルコニーに着目し、巨視的な住宅地再開発伴う居住環境の変化を考えることで建築のあり方をもう一度見直したい。

### 0-2 研究目的

まちからの「外」の視点で見ると、バルコニーの形状によって、建物の印象、街の印象が大きく変わり、より立体感を作り出す効果がある。

本研究では、バルコニーは外部空間を豊かにする要素であるという仮説を提示し、バルコニーを用いで新築住宅の共用部分を豊かにする方法を明らかにしたい。考察から設計手法を抽出し、バルコニーを用いだ豊かな外部空間の可能性を見いだすことを目的とした。

### 0-3_研究方法

第１章の基本情報が既往研究を用いで文献調査を行った。第２章と第３章では、中央区月島の後付けのバルコニーの実地調査で分析を行い、路地との関係性を考察した。第４章からバルコニーを用いだ表層空間の形成の仕方を図でオブジェクトごとを分析を行い、そこから設計手法を考察する。

低層住宅地で得たコミュニティでのあり方を設計手法に変換し設計提案で実現させる。

### 0-4_論文の構成

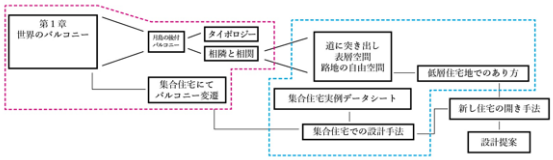


図１論点キーワードの関係性

## 第１章　外部空間とバルコニーの存在歴史

### 1-1_世界における変革の歴史

城壁に付属して防衛機能を持つ小屋が、バルコニーの原型とされている。それをもとに、一般の人でも使えるバルコニーが南、西アジアで展開され、ヨーロッパに輸入された。宗教と権力の象徴としての時期を経て、ルネサンス以降少しずつ普及していた。近代 RC 造の発明により、キャンチレバー構法がモダンニズムの集合住宅で多く使用された。

### 1-2_ 日本における変革の歴史

ヨーロッパから日本にバルコニーが輸入され、近代を経て、象徴的存在から実用的に移行した。公営住宅 51C バルコニーが採用後は普及が進んだ。現在、東京都避難条例の適合の必要もあり、新築マンションにバルコニーを設置しているものは多い。

### 1-3_ 後付けバルコニー

地面と近い建物の表面のルールが許され、改造が可能な表面のスペースを表層空間と定義し、それに接するバルコニーのうち、低層住宅地の後付けバルコニーに着目する。そのようなバルコニーが特に多い低層住宅である月島を選定した。

## 第２章　自発的増築との関係と認識

### 2-1 使い続ける増築の視点

廃墟化が進んでいる地域、使い続ける建築で増築が多く見られた、増築＝成長＝使い続けることを推測される。

### 2-2 違法と合法の間の「城中村」の思考

増築は違法だが、地域の普遍的なことだったので、現実的なニーズと模倣行動で多くの増築が生まれた。４点の増築行為の原因を推定した１、群衆心理と欲望２、環境からの影響３、曖昧な位置付け４、プラスαの良さ。

## 第３章　月島―後付けと「突き出し」

### 3-1_月島の調査範囲と調査方法

月島の賑わいを支えている西仲通りの周辺の路地空間を調査範囲とした。路地に対する突き出しのもの、後付けバルコニーを統計、分類し、タイポロジーを導き出す。

### 3-2_バルコニー分布、タイポロジー

西仲通り周辺の路地には代表的な風景が残され、数多くの後付けバルコニーが存在する。

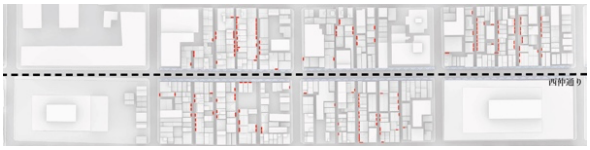


図2 西仲通り周辺外付けバルコニーの分布

壁固定、地面固定、屋根固定の 3 種類の固定方法。古いのは屋根固定、新築/改修後は地面固定、壁固定の傾向が見られた。材料は鉄とアルミが多く、鉄は古いのものが多く、アルミは新しい。木は少ないだが、新旧とも存在していた。

## 第 4 章　表層空間の形成、複合化

### 4-1_街並みと表層空間

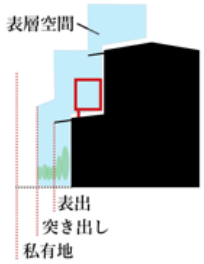


図 3 表層空間の定義

生活感が溢れ出すのは、むき出しの生活用具、設備などであり、後付けのバルコニーと共に住民の個性を表した。江戸町屋に近似した長屋は 2 階の壁は後退し、下屋の上にバルコニーを乗せるタイプ①と、2 階部分の後退のない、バルコニーが突き出しているタイプ②が中心だった。南西向がタイプ①は多く、北東向きが北東向がタイプ②が多い、両側同じタイプの組み合わせで３つの路地断面が形成された。

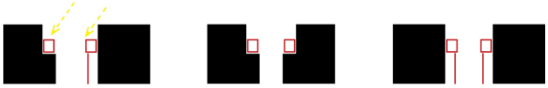

図 4 路地の３つの断面形状

### 4-2 突き出し

突き出し物が固定したもの建物部材、設備器材、可動な部品は住民用、外部用とする。

まちの平面と合わせて見ると、突き出しは重なることによって、単体としての機能より、複数の組み合わせて機能が複合化し、建物表面一定の空間以内に収まる傾向もあり、これらにより表層空間と突き出しの関係性が見えた。

### 4-3 考察

突き出しは街のルールから定められた表層空間であり、機能を特化せず、複合して使用されるのが特徴であり、内部と外部に対して、利用方法の定義も曖昧であるが、表層空間は他の部分よりも重要で、デザインによって、大きな効果が期待できる。

## 第 5 章 設計提案

### 5-1 設計概要

図 5

計画対象地も月島とされている。

月島の再開発、建て替えは一定のサイクルが発生している（図５）のように黒いところの長屋が元々密集して→戸数が減少、更地増加→数年後全て解体され、大規模マンションに建て替えた。

図 6

サイクルの発生のプロセスを考えて、それをデザインする（図６）将来の再開発に引き継ぐ前に、期間限定の観光地でノスタルジックな観光資源となる路地の景観を引き継ぐ。その後も路地の魅力と独特な行動が失われないような集合住宅を計画する。

### 5-2 設計＿１

路地から挟むブロックのを計画範囲とした。一部の建物が解体後、バルコニー、躯体、基礎が残したところをフォーラムに生まれ変わる、表層空間の豊かさを最大限に拡張。

図７、8、９設計１のイメージパース

### 5-3 設計＿2

大規模開発後を想定し、デベロッパーが開発したタワーマンションの内部にバルコニーの連続性を持つコミュニティを挿入する計画。

図 10 設計 2 のイメージパース

参考文献
1) 平成 15 年日本建築学会近畿支部研究報告書. バルコニーの機能とそのデザイン手法の分ついに基づく考察
2) Rem Koolhaas. Elements of Architecture
3) 杉和夫＋青木仁＋井関和郎＋岡本哲志. まち路地再生デザイン

指導教員：山代悟　教授

Songnan Yang